

オリーブ植え付け計画

1 オリーブの品種の選び方

- **品種の利点・欠点と経営方針、園地の条件を考慮し、栽培計画を決定する。**
出荷価格、加工品の品質、収量性、耐病性、耐風性、結実開始の早晩、樹型、収穫方法など。
- **受粉樹を混植する。**
オリーブは同じ品種だけ植えたのでは実がなりにくいので、異なる品種が必要である。
ネバディロ・ブランコを植栽本数の1割以上植える。

江田島市で栽培されている主な品種の特性（表）

品種名（用途）	樹性		果実形質		収穫開始時期	備 考
	樹形	樹高	果形	大きさ（g）		
マンザニコ （塩漬け用）	開張型	中	球	3.0～3.5	10月上旬	豊産性だが、風による果皮の傷に注意。
ミッション （塩漬け・オイル用）	直立型	高	ハート	2.5～3.0	10月中旬	品質は優れるが、炭疽病に弱い。強風で倒伏しやすい。
ネバディロ・ブランコ （オイル用）	開張型	中	長卵	2.0～2.5	10月下旬	花付きが良く花粉が多い。受粉樹に最適。
ルッカ （オイル用）	開張型	高	長卵	1.5～2.0	11月上旬	含油率が高いが、大木になり、結実開始が遅い。

2 栽培ほ場の選び方

高品質の果実を安定的に生産するためには、生育に適した場所で栽培することが最も重要である。

- **年平均気温** 江田島市では、高地の谷など極端な低温になる場所以外は問題ない。
- **日照量** 多いほどよい。谷や山陰、建物の陰など朝日・夕日が遮られる場所は適さない。
- **土 壤** 排水良好で、十分な保水力と保肥力に富んだ肥沃地が適している。
排水対策としては、暗渠や、耕盤（水が溜まり易い地層）破碎のほか、良質な土の客土により、根が生育するのに十分な有効土層（60cm以上）を確保する。
- **水 源** 乾燥に強いイメージがあるが、灌水（水やり）により収量増や高品質化が可能。計画的に灌水が行える水源があることが望ましい。
- **風** 強風により、樹の倒伏や根傷み、果実の損傷や落果などの被害が発生しやすいので、風当たりの強い園地は避ける。受粉は風媒によるため、通風が劣る場合は結実しにくいので注意する。
- **病 害** 雑木や病害発生園に隣接していると病気が出やすい。日当たり・風通しの良い場所が理想。
- **作業性** 軽トラック等で近づける作業道があることが理想。

3 苗木の選び方

- ポット苗（ポリポット、不織布ポット）、掘り上げ苗（根巻きしたもの、根がむき出しのもの）などがある。値段は高いがポット苗や根巻き苗の方が活着・生育共によい。
- 養成に要する労力や収穫開始時期を考慮すると2、3年生苗木を導入する方が有利。
- 果実生産用として最も望ましい苗木は1本立ち苗木である。地際付近で分岐した苗木は、主幹候補枝を残して他の枝を切除するので、無駄が多い。
- 苗木は枝枯れ等のない健全なものを選ぶ。
- 品種名のはっきりしたものを選ぶ。品種不明で『オリーブ』とだけ書かれている苗木は購入しない。
- 苗木は、早めに確保（予約）しておく。

4 植え付けの計画と準備

● 植え付け時期

根痛みの少ないポット苗の場合は盛夏及び厳冬を除き周年植え付けが可能であるが、基本的には新梢が出始めるまでの春植え（1月から3月下旬）が最適である。

● 植栽計画

園地の環境条件、品種、作業道の配置、水源の位置と灌水方法、間引き計画の有無をふまえて決定する。基本的には並木植えとし、列の方向は日当たりを考慮して南北とする。傾斜地では作業性から等高線植えとする。

● 植え付け本数

オリーブの生育は早いので、品質の向上や管理作業の効率化のため、成木となった時点で隣接樹と枝が触れ合わない程度の適切な間隔が必要である。最終的な植え付け本数は50本／10a程度を基本とし、品種の特性や管理の方針によって増減する。また、計画密植でそれ以上の本数を植え付けた場合は、必ず間引きを実施する。間引きが困難な場合は最初から永久樹のみを植栽する。

● 受粉樹の配置

風の方向を考えまんべんなく配置する。

同じ園地内でも、日当たり、排水、土壌不良など、条件の悪い場所には植栽しない。

● 植え付け前の土づくり

植え付け位置が決まったら、植え付け1ヶ月くらい前に、深く広く掘り（目安：幅100cm×奥行100cm×深さ60cm）、掘り上げた土に苦土石灰2kgと熔成リン肥2kg、完熟堆肥（牛糞・バーク堆肥等）10～20kgを混ぜ、埋め戻しておく。

● 資材の準備

灌水用資材（ホース・点滴チューブ等）、肥料、支柱、誘引資材等は植え付け前に準備する。

● 獣害対策

イノシシ等の対策フェンスは植え付け前に設置しておく。

オリーブは永年性作物で、植え付けがその後の生育や収量、品質などに大きな影響を及ぼします。一旦植え付けると、生育が思わしくないからといって改善するのは大変です。後悔しないため、しっかり計画し、植え付けに取り組みましょう。